



地域連携推進委員会報告

地域連携推進センター運営委員長 今井 正

本学は地域社会に根ざし、地域の発展に貢献することを目的として、平成23年度から地域連携推進委員会を設置し、教職員と学生が一体となり地域貢献活動を始めました。

当初は年4回実施されている「いきいき健康広場」が中心で、保健・医療の専門性を活かし、地域の皆様の健康増進や疾病予防など健康観の育成やQOL向上のための活動拠点として活動をしてきました。しかし、学内には並行して教員有志が同じ目的で多彩なボランティア活動をおこない効果を上げているグループが複数ありました。その例としては、健康サポーター養成をおこなっ

ている「ヘルスサポート研究会」、メンタルヘルスに問題をもつ当事者の生活を支える活動をしてきた「かがわメンタルヘルス研究会」、子育て相談会などの活動を継続してきた「地域子育て支援研究会」、さらに今年度から小学生にサイエンスを通して健康を考えさせる体験活動を実践した「小学生サイエンスキャンプ」などです。平成26年度はこれら5つの活動を審査し、大学主催の地域連携推進センター事業の一環として採択する事になりました。その結果、ささやかではありますが、大学から資金援助も開始され、各活動はいっそう活発化して大きな成果を上げる事が出来ました。

卒業式・修了式

平成27年
3月18日(水)

専攻科に入学し、多くの学びと大切な人たちとの出会いがありました。

実習で、お母さんや赤ちゃんに関わらせていただき、いのちの現場に立つことの素晴らしさ、いのちを預かる責任の重さを実感し『いのち』について深く考える1年でした。辛いことや涙を流すこともありましたが、赤ちゃんを見つめるお母さんの笑顔に癒され、いたらない自分にかけてくださるお母さんやご家族からの『ありがとう』の言葉が何よりも嬉しく、励みとなり、乗り越えることができました。

学生に寄り添い、厳しくも愛情のある先生方のもとで過ごすことができ、助産の道へ進むスタート地点として、香川県立保健医療大学を選んで良かったと心から思います。また、私の支えとなってくれた9人の仲間、一人ひとり互いに想いあえる温かみのあるみんなと出会うことができたことは、私の一生の宝物です。

現在、助産師の活躍の場が更に広がっています。女性の一生に関わる助産の対象は幅広く、様々な場で専門性をいかした活動ができる助産師は本当に魅力的な職業であると考えます。これから厳しい現場に立つにあたって、自分の目標を1つずつ達成し、成長することが出会った多くのお母さん、お世話になった先生、素晴らしい先輩助産師の方たちへの恩返しになると考え、日々努力を重ねていきたいと思っています。

助産学専攻科 中島 華子



入学してあっという間の2年でしたが、授業や実習といった過密なスケジュールの中で、苦しみながらも頑張れたのは様々な人との出会いがあったからこそだと実感しています。大学院で経験したことは私自身の大きな財産であり、今後訪れるさまざまな困難にも立ち向かう勇気と希望をもたらしてくれました。心から感謝致します。

保健医療学研究科(専門看護師コース)
沖野 一成



公開講座「健やかに生きよう」 平成26年11月11日(火)

広報・公開講座委員長 眞鍋 紀子

今年度第2回公開講座が、本学にて開催されました。講座は、吉本知恵教授による「いつまでも食事を楽しむためにできる事」と立石謹也准教授による「健康食品のウソとホントー健康食品を正しく利用するために」の2講座で、地域の74名の方が受講されました。

「興味ある内容で為になりました」「健康食品の謎が解けました」などの感想を頂き、好評のうちに終了致しました。平成27年度も8月と11月に開催予定です。詳しい内容等は、大学ホームページや県広報誌でご案内致しますので、是非ご参加下さい。



橄欖祭(大学祭) 平成26年10月18日(土)

[橄欖祭実行委員長] 看護学科 2年 佐伯 友江

今年は「魅せる」というテーマのもと、新しい自分や仲間の姿を改めて発見することができるような大学祭でした。大学祭という大きな行事をやり遂げて、ひとつ成長することができました。

大学祭に向けて、2年生の各実行委員リーダーが責任を持って準備や広報を行っていたため、多くの方々に来ていただけたのだと思います。実行委員メンバーをはじめ、事務の方や先生方、卒業生の方、地域の方々に心よりお礼申し上げます。

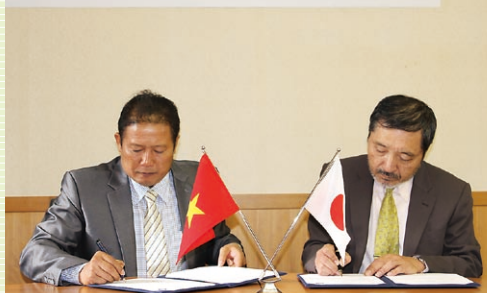


国際交流委員会(IEC)

国際交流委員長 ジャンジュア ナジマ

香川県立保健医療大学・ビントゥアン医科大学校

学術交流に関する協定締結式



In 2014 academic year, the following major international exchange developments took place involving our university: President Katashi Satoh visited Binh Thuan Medical College (BTMC) in Vietnam; IEC Chair Najma Janjua and Nursing Department Head Hiroko Kunikata visited College of the Rockies (COTR) in Canada; BTMC President Pham Van Chuong visited our university; and our university signed agreements for academic exchange and cooperation with BTMC and COTR. Currently, discussions are in progress with BTMC for a faculty exchange and with COTR and Southern Alberta Institute of Technology also in Canada, for a potential student exchange, in 2015 academic year.

小学生サイエンスキャンプ 平成26年8月19日(火)

看護学科 准教授 松村 千鶴

今年度、第1回小学生サイエンスキャンプが本学において開催されました。これは地域の小学生とその保護者を対象に、看護に興味・関心をもってもらうことを目的としたものです。

今回は、日常的な動作(椅子から立ち上がる、体位変換等)について「楽しく解き明かしてみよう“自然な動きと姿勢”」をテーマに小学生11名、その保護者4名が参加されました。特に、小学生は人差し指で大人を持ち上げ大歓声に沸き、楽しい時間を過ごせたようでした。



三大学学術交流会が平成26年12月13日(土)に本学で行われました。医療系学部を有する香川大学、徳島文理大学、香川県立保健医療大学が連携して開催している学術講演会です。高齢化社会に向けての医療施策、看護・介護研究、遠隔医療、環境放射線など、いずれも県民生活に身近な内容の講演でしたので、教員・学生に加え一般の方々にも興味深く聞いていただけたようでした。



教育講演会

看護学科

「ストレングスモデルについて～強みを生かすために～」

講師 聖路加国際大学 萱間 真美先生



看護学科 3年 禰宜 みさき

聖路加国際大学 看護学部 萱間真美先生による「看護とストレングスモデル」についての教育講演を受けました。精神障害者に対するアウトリーチ活動の実際や、リカバリの概念などを聞き、対象者の回復を信じ心から寄り添う看護の在り方を学びました。対象者の価値観を尊重し、その人の強みを活かした看護ができるようになりたいと強く思いました。



臨床検査学科

「臨床検査技師のキャリアアップ」

講師 愛媛県立医療技術大学 大崎 博之先生
香川県立保健医療大学大学院 2年 倉内 貴成さん



臨床検査学科 3年 小原 采奈

愛媛県立医療技術大学 大崎博之先生と本学大学院2年 倉内貴成さんの話を聞いて、ただ与えられた業務や仕事をするだけでなく、少しでも自分が興味を持った深く考える探究心を持つことが大切であると改めて思いました。病院での検査業務だけでなく臨床検査技師における研究活動を行っていくことがこれからの検査技師に求められることであると考えました。私もただ実習や講義を受けるだけでなく、より深く考えて普段から臨み、今までは病院就職だけを考えていましたが研究の楽しさも知ったので将来についての視野も広がりました。

●お知らせ

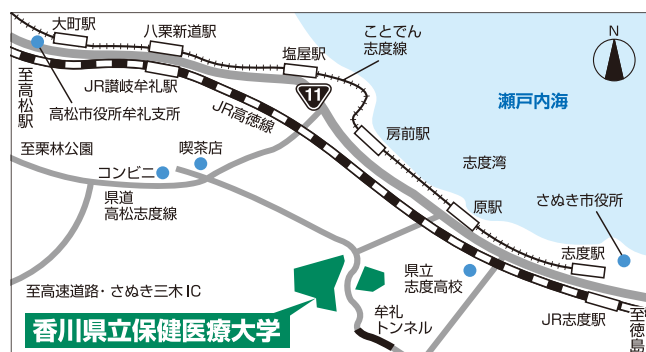
- ◆入学式 4月3日(金)
- ◆オープンキャンパス 7月下旬予定
- ◆公開講座 8月下旬・11月中旬予定
- ◆橄欖祭(大学祭) 10月17日(土)
- ◆いきいき健康広場 5月・8月・11月・1月(予定)



香川県立保健医療大学

KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1
Tel: 087-870-1212 Fax: 087-870-1202
E-mail: hokeniriyodaigaku@pref.kagawa.lg.jp
http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/



◆学校への経路

- 【西方面から】高松から車で30分
ことでん志度線・原駅下車徒歩10分
高松東ICより車で10分
- 【東方面から】JR高徳線・JR志度駅から車で5分
志度IC(または、さぬき三木IC)より車で10分

タイトルのHANDsは“高い専門的医療技術により、尊い生命を支える人間愛に溢れた温かい手”を意味しています。